

磐梯町デジタル変革に関するオンライン審議会記録

(第2回審議会)

会議日時	令和2年12月18日(金) 午後3時00分 開会			
	午後4時01分 閉会			
場 所	オンラインにより開催			
出席者数	委員定数 6名中 出席者 6名			
出席委員	椎名 毅		小山ひろみ	
	中元淳二		桂 Jasmine 末利子	
	大久保光伸		前田諭志	
欠席委員				
出席した者	磐梯町長	佐藤淳一	地域おこし企業人	星 久美子
	磐梯町 CDO	菅原直敏		
	デジタル変革戦略室長	穴澤竜一		
書 記	デジタル変革係長	長 泰志		
付議事件	(1) 報告事項 ① BPRプロジェクトについて (2) 協議事項 ① 磐梯町デジタル変革に関する審議会のロードマップ(案)について (3) その他 次回(1月)審議会の開催について			
会議の概要	(別記のとおり)			

【会議の概要】

- ・ はい、それでは、定刻となりましたので、ただいまから第2回磐梯町デジタル変革審議会を次第により開始させていただきます。(穴澤)
- ・ 2の会長挨拶でございます。椎名会長よろしくお願いたします。(穴澤)
- ・ よろしくお願いたします。あの、本日2回目ということで、私はちょっと出先なんでこんな感じですけども、よろしくお願いたします。はい、それでは、次第に入りたいと思いますけど、事務局からちょっとご説明をお願いたします。(椎名)
- ・ はい、ありがとうございます。それでは3の議事に入らせていただきます。審議会要綱第5条第2項の規定によりまして、椎名会長に議長をお願したいと思ひます。会長よろしくお願いたします。(穴澤)
- ・ はい、よろしくお願いたします。それでは議事に入りたいと思ひますけど、えっと、まず、ちょっとごめんなさい、今、出先なので、手元にちょっと議事がないので、ちょっとすいません、あの議事に入りたいと思ひます。よろしくお願いたします。(椎名)
- ・ それでは、私の方から報告事項ということでBPRプロジェクトについてご報告させていただきます。ちょっと資料を共有させていただきます。磐梯町におきまして、今年度ですね、DXの中で重要なミッションの一つとBPRは位置つけております。全職員を対象に実施いたしました、業務の調査をもとにですね、プロジェクトチームを作って、今後進めていこうとするものでございます。業務量調査の結果によりますとですね、職員でなくてもできる業務、ノンコア業務が約20%、磐梯町職員数が少ないんで、17人分は職員でなくても作業ができる業務であったというような結果がされております。そのノンコア業務につきまして、今後ICT化であったり、アウトソーシングなどを含めまして業務の改善を進めてまいりたいと考えております。最初の取り組みといたしまして、教育委員会の教育課にヒアリングを実施させていただきました。なぜ、教育課を先にしたかと申し上げますと、教育課はですね、公民館、体育館、運動場など多くの社会教育施設を有してございまして、それらを使用する際の予約をアナログ、台帳管理で行なっておりました。使用者である住民が、窓口に来庁していただいて、予約をとるといふようなシステムでございます。また、各種委員会等も所管してございまして、会議の通知、議事録作成等に相当の時間を有していることがわかりました。この辺はですね、今回、改善してまいりたいと考えております。また、ヒアリングの中におきましては、教育委員会のみの課題ではなく、全庁的に文書取扱規程の見直しが必要であるという課題も見えてまいりました。なかなかこのBPRにおきましては、先進事例事例が見当たらないことから一つ一つ課題を解決していく手法しかないかなということで、この度ですね、プロジェクトチームを立ち上げたところでございます。当庁のDXにおきましては、様々な包括連携協定でお手伝いをいただいております企業さんにもですね、プロジェクトチームに入っただき、専門的な知見あるいは先進事例、成功事例等を頂きながら、これから進めてまいりたいと思っております。

来週 25 日にプロジェクトチームの 2 回目のミーティングが開催される予定でございます。その中でですね、今後どういう風に BPR を実施していくかっていうな方向性等が見えて参りましたら、また、本審議会の方にもご報告をさせていただきたいと思っております。また、委員の方々からですね、他市町村におきまして先進的な取り組み、あるいは、成功事例等がございましたら、ぜひ情報の提供をいただければ、非常にありがたいありがたいと思っております。報告事項としては、以上でございます。よろしく申し上げます。(穴澤)

- ・ 菅原さん、なんか補足あります。すいません、聞こえてますか。(椎名)
- ・ 菅原さん、聞こえてますか。(穴澤)
- ・ 菅原さん、聞こえてます？(椎名)
- ・ なんか、菅原さん固まってる固まっちゃってるような感じですね。(穴澤)
- ・ ちょっとじゃあ、皆様方のご意見伺いましょうか。ああ、菅原さん、今、退出になりましたね。そうしましたら、皆様、ご意見ございます方、いらっしゃいますか。ご意見、ご質問。(椎名)
- ・ 大久保です。(大久保)
- ・ はい、お疲れ様です。(椎名)
- ・ 今、ちょうど私もですね、中央省庁で今日まで外務省でですね、CIO である官房長を中心に全体のワークショップ開催してきたんですけども、ひとつ、このようにアンケートとって進めていく中で難しいのが、期待値コントロールだと思ってます。皆さんご回答してくださって、その後、実務まで後反映されるまでかなり時間がかかるもの例えば、調達とカルールを変更するといったあたりはですね、先が長い物になるので、あの、一つポイントとしましては、例えばあの全員がですね共有できるような、すぐにできる成功体験、それを一個やっておくと、皆さんモチベーションにもつながりますので、わかりやすい業務ですね、あの、特に皆さんが関わる場所、それを優先して進めて成果物として発表されるのが望ましいかな、というふうに考えています。(大久保)
- ・ はい、ありがとうございました。大久保委員のおっしゃるとおりあの、成功事例を見せてあげないと、なかなかこの DX も BPR も進まないと思っております。恥ずかしながら、成功事例って今見せてあげてるのが、皆さんの日程調整にも使わせていただきました調整さん、これ、10 年前ぐらいに開発されたそうなんです、役所にとっては非常には画期的です。皆さん重宝されております。結構役所って、この今回の審議会もそうなんです、皆さん日程調整って苦慮するんですね、前ですと、メールをしたりで電話かけたりして日程調整してしてたんですが、これ一発で今投げとけば、調整されるってということで、非常にこういう部分でかなり業務改善が図られてるのかなと思っております。
あと連絡ツールがですね、これまで磐梯町貧弱でしたので、今全職員に Teams を入れまして、様々なプロジェクトの連絡調整等がその中で行われている状況でございます。あと今回の審議会につきましても Ai 文字起こしというのを、今、試験的に使わせて頂いておりますので、この辺はですね、精度が上がってくれば、この教育委員会ですと、毎月月例の教育委員会というのがございまして、その会議

録を課長が自ら半日ぐらいかかって文字起こしてたっていうことがございますので、そういう意味で全庁的に広がっていけば、なるほど、あのデジタル化って良いことだっていうふうに広がっていくかなと思っております。本当に成功事例を皆さんに見せていきたいと、これから思っております。ありがとうございました。(穴澤)

- ・他に何かご意見ございますか。菅原さん、戻ってんですか、これ。(椎名)
- ・はい、戻っております。はい(菅原)
- ・じゃあっていうか、ちょっと、あの、聞いてみたいことなんですけど、出ている項目3つということなんですけど、なんか思ったより少ないなって思ったんですけど、他にもある中でこれが優先順位が高いってということですかね。(前田)
- ・はい、えーと、前田さんを仰りました3つっていうのは教育課のヒヤリングを実施した結果のポイント(穴澤)
- ・ああ、そうですね。(前田)
- ・そうですね、目に付いたところがこの3つが特筆すべきかなと思いました。(穴澤)
- ・なるほど、これにすごく、議事録は確かに想像できるんですけど、予約の調整とかにもすごく時間がかかっていてICTツール入れれば効果が上がりそうだっていうことですか。(前田)
- ・あの一、聞こえています？(椎名)
- ・穴澤室長、続けていただいております。(菅原)
- ・はい、予約システムツールICT化という部分ですが、あの、簡単に予約ができるようにするシステムを構築するのも一つでございますが、あの、使用したい町民の方がですね公民館なり体育館に来ないと予約ができないっていう現状でございますので、その辺ですね、ゆくゆくは自分のスマートフォンの中から予約状況を確認できて、最終的には、そこからも予約ができるようなシステムを構築していきたいなどは考えております。まあ、その部分は公民館だけじゃなくて町には様々な施設がございますので、そういった所へすべて広げていければなあとは思っております。(穴澤)
- ・これ、その、項目を広げるか、広げないか問題っていうのってあれですよ。その、当面まずこれからスタートしてってということを念頭に置かれてるって事なんですよね。(椎名)
- ・はい、まだ、教育課しかヒヤリングを行っておりませんので、これからですね、まあ、役場内全課ヒヤリングを行いまして、多分こういった施設の予約システムっていうのは各課共通の課題になってくるものだと思いますので、全庁的にその辺はシステム化するのか、どういったシステムがいいのかという部分は、全庁として考えていきたいなと思っております。(穴澤)
- ・すいません、さっきの話で、コア業務とノンコア業務の洗い出しはもう終わってるんですよ、であれば、どのぐらい時間がかかってるのかとか、ICTツールで解決できそうかみたいなのかそういう抽出の指標があれば、洗い出すのって簡単にできるんじゃないかなって思いました。(前田)

- ・あのちょっと補足でご説明をさせてください。まさに今、前田委員がおっしゃったとおりでございます。あの、業務の見える化は全部終わってますので、そういった意味ではあのどの業務のが、あの、時間数も含めて多いかということは可視化をされております。
そのうえで、あの、こないだやはり教育課の方でヒアリングをしたところ、網羅的にやるよりも、まずはその上3つぐらいの重いものから、まず片付けていくやり方がいいだろうなという形に、あの、ひとつちょっと考え方が落ち着きまして、ですので、あの、まずはこの重い業務、なので一番重いのが特に課長が議事録を作成してるっていうのがございましたので、そういった部分も踏まえて議事録の部分もそうなんですけれども、教育委員会の会議が開催されるにあたりまして、その開催の通知から最後を締めるところまでの一連のフローを全部フロートとして可視化をして、その部分で、まず必要のないフローはそこでまず廃止をするという、部分をして、さらにその中で必要なフローに関しては、ICT化をしていく、で、ICT化をしてく前提としては、当然資料はデータ化をして、完全ペーパーレス化をしていく部分、さらに、そのためには、職員の方は今対応できるんですけれども、教育委員の皆さんの中にも、ちゃんと、その、それを出来るようになりテラシーを持って頂いて、共通のチャットツールなりのプラットフォームに入っていただくというこういった形をすることによって、今、このオンライン審議会自体がそういった形で来てるんですが、これをちょっと援用する形で、やっていけないかってことも模索してます。はい。(菅原)
- ・音声聞こえてますか。すみません、音声。(椎名)
- ・会長、かなり途切れ途切れです。すみません、だんだん放送事故みたいになってきてるんで、あの、であればちょっと副会長のほうにバトンを渡してください。(菅原)
- ・副会長のほうにいったんお願いしたいと思います。(椎名)
- ・はい、じゃあ、会長から中元副会長の方をお願いします。(菅原)
- ・えーっと、今の議論だと、特に教育課からヒアリングのほうを実施していただいている、実際にそうですね、職員が対応する業務が可視化されていて、ということで、教育課のヒアリングでは3つあげていただいて、いろいろ検討していただいているって話でしたよね。
そうですね、ちょっと、私から質問というか、職員が一応やるべき仕事とかは、一応これからはペーパーレス化の推進でかんで流れていくって話にじゃなってるんですが、これから、あの、いろいろやるべき仕事全部がペーパーレス化するとか、そうするとまたちょっと色々、また時間もかかったり、また、ペーパーレス化しなくてもいいとかって判断も多分、色々ってあるかと思うけど、その辺の検討とかは、これからされていくってことでよろしいですか。(中元)
- ・おっしゃるとおり、これからペーパーレス化も進めてまいりたいと思ってます。また、今回ですね業務量調査をするにあたりまして、どの程度ペーパーも使ってるかの調査もしてございますし、今回はハンコの数も数えていただきました。係によっては、非常に印鑑を使用してる係も、突出して多いところもございましたので、まあ、今の流れ印鑑廃止っていうことで、その辺も含めてこれからBPRを進めていきたいなと考えております。(穴澤)
- ・あ、そうですか、わかりました。はい、ありがとうございます。印鑑って、大体、今いろいろ話題にな

ってるんですが、大体どのくらいは、印鑑必要な業務とか、あるとあってのは、こちらで、今、洗い出しはされてるって感じですか。(中元)

・ 必要性までは、まだ議論しておりません、現状の把握だけですね。どの業務に印鑑を使用して、どの程度ハンコを押す回数があるのかまでは把握しております。(穴澤)

・ あ、なるほど。あの、今中央省庁なんかでいうと、だいぶ印鑑が必要でない業務とかで、だいぶそこを今、署名とかに切り替えたりとか、色々されてるかと思うんですが、ちょっとそちらまでは、まあ、ちょっと中々負担がもしかしたら大きい、色々検討事項を多くなってしまうかもしれないので、でも、まあちょっと、色々とやっていくかもしれないってことですかね。

はい、わかりました。それじゃあ、あの、私は会長からちょっといろいろと業務を引き継いでおりまして、他にどなたか意見等ありましたらお願いいたします。(中元)

・ はい、すいません、お願いします。(中元)

・ ありがとうございます。今、全量調査をして、ファクトベースでばっと全量出ている状態だと思うんですが、それでどの施策からやるか比重付けしている段階ですよ。比重が一番大きい指標として工数を見て、工数削減、あとはたぶん、手のつけやすさとか、さっき、大久保さん仰られた、あの、成功体験の作りやすさってなかなかない視点だと思うんですけど、分析縦軸として、他にどういう指標で配分付けていうか、どこから手をつけよとしているかって、ありますか。(桂)

・ じゃあ、ちょっと私の方からご説明をさせていただきます。配分づけとしては、おおよそ三つの考え方がございまして、まず1点目は、まさにあの、ファクトベースの業務量の多さを上から潰していく、で、また潰したらそこがなくなるので、それが上がっていったものを潰していくってことを各課のベースで行ってくつのがまず一点あります。

2点目なんですけれども、2点目はですね、今度どは先ほどあの中元委員からもご指摘があったようにあの印鑑だったら印鑑、審議会だった審議会みたいな、あの、同じカテゴリーですね、同じカテゴリーでこれを潰していくって形の作業があります。これは2点目のアプローチです。

3点目のアプローチは先ほどの成功事例って話があったんですけど、ちょっとそれに近いんですけども、磐梯町ですね課が10以上あるんですけども、その中で、あの、やはり、その、大きい課とちっちゃい課があるんですけども、特にちっちゃい課において完全事例を最初に作っていくって、ちっちゃいところから潰していく、もっと言うと、デジタル変革戦略室は完全にもう、BPRだって完全デジタルできてるんですけど、もともとそういう設定で作った組織なんですけど次に職員が本当に一人とか二人しかいないような組織において完全事例を作っちゃうという、こういう3つのアプローチをうまく組み合わせながらやってくると良いのではないかなというふうにちょっと今考えております。(菅原)

・ ありがとうございます。手がつけやすくて効果があるところから徐々にやっていくと、私の会社もそうなんですけどツールの数が増えがちなんです、すごく、ツールの数増えると、ちょっとセキュリティの管理するものが増えたりとか、すごく煩雑うになってきて、最終的に何か汎用性が無くてぐちゃ、結局ぐちゃぐちゃになっちゃうっていうことがあったりするので、なんかツール導入の際の汎用性とか、たぶんカテゴリー分けされてるって仰ってたので、この業務とこの業務はこのツールでいけそうみたいなざっくりあると思うんですけど、そのへん必要なのかなと、思いました。(桂)

- ・ありがとうございます。あの、まさにおっしゃるとおりで、ですので、このの BPR に関しては、それを所管する、担当するのが私たち戦略室っていう横串組織なので、当然、各課だけにやらしちゃうと各課で好きなものいれてしまうので、そこはしっかり、グリップをして、あの、共通の形で、あの、データもデジタルも共有してくる仕組みでやっていきたいと思ってますし、その都度皆様にご相談させていただきたいと思います。(菅原)
- ・はい、ありがとうございます。(桂)
- ・ありがとうございました。ほかにどなたか意見はございますか。はい、大久保さん、お願いします。(中元)
- ・えっと、コメントになってしまって恐縮なんですけど、あの、自治体とか中央省庁でですね、例えば先ほど掲げられていた 22 名分の工数削減につながりますと。その辺り、あの、おそらく自治体でも雇用を創出する、あの、観点とかですね、まあ、維持する観点といったところが入ってくると思うので、民間で進める時は、例えば、もうここ、あの、二人三人減らせますっていうとですね、先に人を減らしてそのぶん新しい業務に集中してもらおうと、それくらい強制力をつけてやってるところがあるんですけども、今回の場合は、例えば、業務委託できるいったところも、もう完全に見えてるので、やろうと思ったらその外出しっていうのもできるかもしれないですけど、この、新たなビジネスを作る、例えばデジタル化のサポートとかですね、ツールの支援、そういった動画を作ったり、そういった事も並行して考えていかないと、あの、全員のですね、そのモチベーション、職員のモチベーションを保つのが難しいのかなという風に感じてます。コメントで恐縮です。(大久保)
- ・ありがとうございます。えっと、コメントに関して何かありますか。じゃ、小山さんお願いします。(中元)
- ・はい、ありがとうございます。今の大久保さんの話につながる内容で、私たちの会社も他領域、空間以外に例えばデジタルであったりですとか、海外と繋げてっていうようなことで、多領域にわたる場合どうしてもその縦型で知識が終わり、特に行政の方は皆さん深い知識はあるけれど、でもなかなか横に連携ができないっていうところでの横串を刺されてらっしゃるんだと思っております。その際に今後必要になってくる能力というのが、横の皆さんが何をしてるかというのをみんなが把握しながら、まあ、外注をされる場合、デレクションができる能力ってのが必要になってくると思いますので、その辺りも、あの、皆さんのモチベーションに繋がっていくのかなと思いました。私からは以上です。(小山)
- ・はい、ありがとうございました。えっまあ、いろいろたぶんこれから業務委託等考えられてきた中で、おそらく、その、職員の方がたらそのモチベーションですよ、きっと、こちらのほうをどういった形で維持して、それからもっと活性化させていくのかっていうのは、色々たぶん試行錯誤されて中で、検討していくべきかなという風に思いますので、はい、えーと、そちらの方で、これからまた、じゃあ、議論を深めていければというふうに考えております。えーと、以上他に何かご意見等ございますか。じゃあ、特になければ BPR の方はこちらで、議題は、じゃあ、一旦クローズという形で、次にえっと一、次ってよろしいですか。はい、(中元)

・ はい、じゃあ、次、あの、この当申議会のロードマップについてご説明をさせていただきますのでよろしく
お願いします。じゃあ、ちょっと画面を共有させていただきます。

それではですね、えっと、磐梯町デジタル変革に関する審議会ロードマップ案という形で、この点について皆さんからご意見いただいて、あの、今日ここで協議させて頂いて、来月以降の進め方にさせていただきたいと思います。

で、まずなんですけれども、磐梯町のデジタル変革のミッションは、誰もが自分らしく生きられる共生社会をともに作っていく、共創するというのがこのミッションです。そのうえで、磐梯町全体のビジョンですけれども、これが子や孫たちが暮らし続けたい魅力あるまちづくりということがビジョンになっております。で、そのうえで、当該審議会のミッションですけれども、町民本位の町政を推進すると同時に、デジタル変革に関する自治体のモデルを構築し、日本の自治体経営のあり方を変革することということで、当然、町民本位の業務を作っていく、あの、形にしていくってのは、町なら当然なんですけれども、その作ったモデル自体を、まあ、ひとつの形にして、あの近隣の自治体等々にもですね、参考にしていただきたいなという、そういう強い意欲的な思いがございます。

そういった中で、えっとですね。5点ほどあるんですけども、柱がですね。まずそのうちの最初の3つについてですけど、1点目ですけどまず、デジタル変革についてというものがございます。アウトカムなんですけれども磐梯町を舞台に官民という境界を意識せずにあたる個人・法人等がですね、課題解決・価値創造会及び共生社会を共創するという環境をデジタル技術を前提とするツールの中で作っていききたいというものがございます。そういった中で、アウトプットしてまずは、磐梯町のデジタル変革戦略というものは日々改定をされますので、そういった改定の部分に関して皆さんからご意見を頂いて改定内容をより良いものにしていききたいというものがございます。そういった中で、議論の論点としては、デジタル変革が何なのかということと、あとは現在の磐梯町の現状・課題・展望、こういった部分であったり、皆様から頂いた課題意識について、ここで議論をして、反映させていただけたらいいというふうに思います。

で、2点目が情報セキュリティ対策についてということになります。こちらはですね、あの町民の情報守る体制と業務の円滑な執行体制を両立したうえで、様々な行政経営リスクを考慮したバランスの良い情報セキュリティ環境を構築することを目標にしております。ともすると、その、情報セキュリティを守るというところばかりに力点を置かれてですね、業務の効率性っていうのが、結構犠牲にされてきたのが、今の行政運営でございまして、当然リスクはゼロになるということは存在しませんので、どこまで、この、町としてリスクを可視化して、どこまでを許容していいのかっていう議論も踏まえて、業務の効率性とのバランスを取った形の新しい形を作っていききたいと思います。そのうでアウトプットとしては、セキュリティポリシー等の改定、そして、情報セキュリティ対策の再構築という形、まあ、こういったものアウトプットにして参りたいと思っております。

3点目、条例・規則・要綱及び事業等の再構築ってことなんですけど、これは、先ほどのBPRに通じるところがございます。アウトカムとしてはデジタル変革が円滑に推進できるために、環境を条例・規則・要綱及び事業を再構築することという形にさせていただいております。アウトプットとしては、条例・規則・要綱及び事業との整理とデジタル変革に合わせた改正という形、そして、先ほどご説明したBPR、業務改革等になってまいります。デジタル化を推進するうえでデジタル化の前提になる最初のアナログの基盤の部分がかかりしてないといえてないということで、こういったところもBPRに合わせてどんどん行って参りたいというふうに思っております。

これらの3つの柱を踏まえたとえ、これらが前提になりますと、今度はそれを前提とした、より総合的なデジタル変革の取り組みについての議論ができるというふうに考えておりました、まあ、そういった議論を行なって参りたいと思っております。

そして、最後に5番目なんですけれども、やはりこの過程でやって行きますと、当然こう法律の壁であったり、制度の壁みたいな物にぶつかることは見えておりました、そういったものが可視化されて参りますので、そういった知見を関係機関等にですね、政府だったり、県だったり、そういったところにも、しっかり報告をして、提言をするということも、合わせてやって参りたいというふうに考えております。

審議会のタイムスケジュールなんですけど、イメージなんですけれども、今日が12月ですから、来月からまだ年度内の3ヶ月でこの各項目1項目ずつを1、2、3月でまずその行うという形をして、ちょうど来年の4月までにデジタル変革戦略の第2版を改定予定ですので、そういったものも議論していただく形になります。そして、2021年度、来年の4月からなんですけれども、先ほどの具体的なアウトプットというものを形作っていくという作業、私どもがたたき台等々を作って参りますので、そういったものを議論したうえで、やっていきたいと思っております。ちょうど来年の7月1日がデジタル戦略室の設立されて1年目になりますので、そういったところでひとつの形ができたかなというふうに考えます。そのうえで、そういった前提で回しながら、来年の秋口以降に今度は総合的な取り組みについての議論を始めさせていただきまして、再来年度の予算等々にそういった審議内容も反映をさせていくという形を作っていたらなあというふうに思っています。以上がロードマップの簡単なご説明になります。よろしく申し上げます（菅原）

・ あ、はい、どうもありがとうございました。えーと、こちらについては、一応、今回、えーと、協議事項ということですね、はい。では、まずはじゃあ最初に、たぶん委員の皆様で、今、あの、菅原さんから説明いただいた内容について何かまずご質問ありましたら、最初にちょっと伺っておきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。はい、大久保さん、お願いたします。（中元）

・ あの質問というか、コメントになって恐縮なんですけれども、あの、重要な論点で、あのまあ、はセキュリティポリシーですとか、その、ブレーキを踏まなきゃいけないところ、ただ前に進まなきゃいけないといったところですね、あの表裏一体でついてくると思いますので、その点につきましては、リスクベースアプローチですかね、その取り扱う情報に応じてサンドボックス的にこう進めていくというふうになると思っています。

その前提になるのが、あのデータの取扱い基準ですね。例えば、このツールで何の業務まで使えますっていうのを、たぶん、あの、もう誰が見ても分かるような、その、ベースラインっていうのを作ってあげないと、あの、私は違反して使ってるんじゃないとか、あのソワソワしなきゃいけないみたいな思いを抱かせたいいけないと思うんですね。ので、ポリシーまで反映する必要はなくても一部業務で試みましょうと、例えば、議事録あの一、Ai使いますと、saasのサービスなんですけど、その外にのつけられない情報はやめましょうというのですね、あの、ここまではだめですというのを書いてあげれば、皆さん安心して進められると思いますので、あのきっかけとしてですね、考慮いただければというふうに思いました。（大久保）

・ はい、どうもありがとうございます。データの取り扱いの基準の話だったかと思うんですけど、こちら

は今、ご提示いただいた、3つの点があるかと思うんですけど、それを主にセキュリティ、情報セキュリティ対策に関連してくるですかね。ちょっと。(中元)

- ・ 項番2にあたると思ってます。(大久保)
- ・ こちらはセキュリティポリシーの中にはデータの取り扱いに関してですよ、たぶん、色々ときちんと定めたほうがいいというコメントかと思います。どうもありがとうございました。他に、あの、委員の皆様で、あの、ご意見・ご質問ですね、ありましたらお願いいたします。
えーと、あ、じゃあ、私から一点伺いたいんですけども、えーと、これ、えーとロードマップのタイムスケジュールの中で、2021年の7月から9月まで、これ、国や関係機関に働きかけるっていうのがあったかと思うんですけども、今、たぶんですね、デジタル庁話の中で、あの自治体はそのシステムの統一化の話があるかと思うんですけども、そういったその、システムの統一化に関連する話とかと、これと、ちょっとどういった関係にあるかって、ちょっと私の方で、まだ、ちょっとよく理解できないところがあるんですけど、もし、わかっている範囲であったら、ちょっと教えていただければと思うんですけども。(中元)
- ・ はい、当然、あの、このデジタル変革に関して審議していただく審議会でございますので、その広域連携とかクラウド化の話も含めて、検討してまいりたいというふうに考えております。はい。(菅原)
- ・ あ、ありがとうございます。いろいろ広域連携と言うか、他の市町村とかと一応連携をとってとという話ですね。わかりました。あの、他に何か委員の先生方で何か質問がありましたら。ジャスミンさん、お願いします。(中元)
- ・ はい、ありがとうございます。ミッションに、共成社会を共創するってあるとあると思うんですけど、あの、共創っていう事をする際に、町民の方に広く広報することって大事だと思うんですけど、今、Facebook されていて、他の SNS もする予定があるのかもしれないんですけど、その際にエンゲージメントをはかる、どれだけ町民がこの取り組みに対してワクワクしてるかとかもっと良いのは、主体性を感じてるとか、そういうを図っていく予定とかってありますか。(桂)
- ・ はい、えっとですね、あの、ございます。というよりも、やはり SNS を使う一つの、その目的ってのが、そういうところがありますので、まだちょっと不完全ではあるんですけども、Facebook のページにしても、あの、一体どれだけの、その、要するに、あの、関わりがあったのかというところは、あの、把握させるように努めていきたいというふうに考えております。
と、同時に、もう一つ、今、ちょっと課題としてありますのが、町民もそうなんですけれども、まず、職員の皆さんのやっぱりエンゲージメントも、どうやって高めていったほうがいいのか。あの、確かに、あの、今年中に Teams はみんなアカウントを持つ形になるんですけども、やはり、その系の濃淡が、その、業務で強制性がないというか、まあ、必要性がないと、どうしてもないので、そういったところも一つ、ちょっと課題としてはございますので、併せて御報告をさせていただきます。(菅原)
- ・ ありがとうございます。(桂)
- ・ ありがとうございました。ほかに何か意見の方は。ちょっとまだ会長は今何かもどってこられたよだったんですけど、またなんか切れてしまっているのか、ちょっとよくわかんないんですけど、私がまだ続

行したほうが、あっ、戻られましたかね。(中元)

- ・ すいません、戻ってはいるんですけど、たぶん、ちゃんと仕切れる感じじゃないかもしれません。すいません。(椎名)
- ・ じゃあ、これどうどうしましょう。私がこのまま続けた方がよろしいですかね。(中元)
- ・ 中元先生、お願いしていいですか。すいません。(椎名)
- ・ ちょっとうまく調子が戻ってないようなので、他に何か質問はありますでしょうか。前田さん、お願い致します。(中元)
- ・ さっきの話で、少し気になったのが、関連する条例も改正していくという話で、それって、何気にていうか、ものすごく大変なんじゃないかなと思ったんですけど、ちょっと、そもそものところお聞きしたいんですけど、条例って、どのくらいの数があるのかですとか、ちゃんと、あの、電子化されていて検索可能な状態になっているのかですとか、そういう基本的なところをお聞きしてもよろしいですか。(前田)
- ・ はい、まず、データ化に関してはですね、あの町の方で例規集を Web 上にアップしておりますので、全てデータベースでご覧頂くことが可能になっております。で、ちょっと数に関してはあの調べればすぐ出てくるんですけど、当然の数は把握しております。はい。(菅原)
- ・ なるほど。であればその関連しそうなところとかを抽出して、改正していくというのはやりやすいそうですね。(前田)
- ・ この条例の意図なんですけど、まず、一点分かりやすい例を挙げますと、例えば先ほど、その、ハンコ、印鑑の廃止、押印の廃止みたいな話があったと思うですけども、当然、法律では問題なくてもですね、条例に例えばこう、押印のうえ提出することみたいな項目があると、当然、運用上廃止できても、そこをちゃんと変えないと、ちょっと齟齬が出てきてしまうので、そういったものをちゃんと丁寧に洗い出していくって作業が、実は結構重要になっていきますという部分が一点ございます。
もう一つはですね、やはり条例ってそんなに見直しをしないんで、そのまんまなんか必要のない条例が残ってしまっていたりする条例ってあったりします。例えばですね、なんか一番わかりやすいのって、昭和天皇の誕生日を何でお休みする条例だったか、何かそういったような条例があるんですけども、当然今となっては、おそらく使うことない条例がそのまま、たぶん、見直しもせず残っている。これはだから単純に廃止をしていく。そういったところを一回、あの、やっていく作業が必要になってくるのかな、ただ、そのうえで、当然、私共もそこまで、あの、そういうことに深い知見があるわけではございませんので、どういった方向性でやっていったらいいのかってことを、あの、会長などは弁護士でもいらっしゃるので、そういったところのご知見とか御教示いただければ、あの、あるルールに従ってやっていけるのかなというふうに思っています。(菅原)
- ・ わかりました。すいません。椎名です。聞こえてますか。大丈夫ですか。放送事故になってないですか。大丈夫ですか。(椎名)
- ・ 会長が復帰されたようなので。(中元)

- ・ 今のお話を踏まえるとあれですかね、あの、だからどういうふうに優先順位付けをして条例を洗っていくかみたいなどの検討と、実際にお改正をする内容をどう検討していくかっていうことの庁内の議論とかも含めて、それらを事前に審議会でご相談するっていう形がいいですね。おそらく。(椎名)
- ・ 大丈夫ですか。大丈夫ですか、聞こえてます？ すいません、椎名です。(椎名)
- ・ すいません。ちょっとまたなにか回線が切れてしまったようで。(中元)
- ・ すいません。たぶん、電波状況の悪いところに今いるんですよ。回線が切れたり切れなかったりみたいな時がもしかしたらあるかもしれないんですけど、要はだからあれですよ、あの、その、なんていうんですか、その、どの条例をどういうふうに改正していくかってリストアップを庁内の方でしていただいて、きちんと、こう、あの、一つ一つ検討していくプロセスを、まあ、審議会でお手伝いをするっていう理解でよろしいですね。(椎名)
- ・ はい、そのとおりでございます。(菅原)
- ・ はい、ありがとうございます。(椎名)
- ・ はい、すいませんひとつ補足させていただきますと、おそらく自治体の条例の変更にかかるところと、あとは、事務処理基準の見直しですむもので、もうひとつ先ほどの資料の項番5だったと思うんですけど、例えば、グレーゾーンの解消制度なり特別区とかの制度を利用するっていうのケースも入ってくると思うんですね。今は、あの、自治体でやられている業務の中で、あの、そこまで、その、なんでしょう、例えばドローンを飛ばすための申請が必要ですし、特別区の申請っていうのが出てきてないかもしれないんですけど、あの見直しのタイミングとしては、今しかないと思うので、もし、そのような業務があったら、もう、項番に先に入れておいても良いかと思います。あの、必要最低限3ヶ月はかかりますので。はい。以上です。(大久保)
- ・ あ、また会長が、・・・菅原さん、お願いします。(中元)
- ・ 当然、その、法律上は難しくても、例えば、特区を使えばできるみたいな案があるのであれば、そういったところも含めて広く検討していきたいと思っています。で、やっぱり、とは言っても、網羅的にはできないで、この優先順位付けをどうしていくのかってところが重要になってくるのかなというふうに思っています。よろしくお願いします。(菅原)
- ・ あ、はい、ジャスミンさん、お願いします。(中元)
- ・ はい、ありがとうございます。結構ボリュームなタスクになっちゃったと思うんですけど、もし、条例がマークアップされたりしたら、すごいかっこいいなあと思って、例えば、成人って定義した時に、成人年齢って変わる可能性があるわけじゃないですか。すると十八歳を成人として扱う、婚姻年齢、婚姻したら成人として扱う、結局一緒じゃんとか。それが検索可能な文章になってるだけじゃなくて、ここを変えたらここに影響あるよっていう構造までされるとすごい革新的、かっこいいと思いました。(桂)

- ・ はい、ありがとうございます。これに対して菅原さん、よろしくお願いします。(中元)
- ・ まさに、実はですね、こう、国と違いまして、国は法政局があって、てにをはまで含めてチェックする、あの、人員体制側があってそれだけで組織になってんですけども、やはり、村とか町はですね、そもそもそういったものをできる、あの、余力がないですね。なので、逆に今みたいなご提案が、可能になるのであれば、これは本当に、もう、かっこいいを乗り越して たぶん、村と町を救う形になるのではないかなというふうに思ってます。でも、そういったこともですね、あの、あんまり障壁を考えずに議論していただけたらと思います。お願いします。はい。(菅原)
- ・ あ、はい、次、小山さん、お願いします。(小山)
- ・ ありがとうございます。あの、ジャスミンさんのお話を伺って、私も、実証実験としていただく際に警察に許可を出さないといけないとか、データの取得の時に個人情報はどうなるのかみたいなことで、進めていって始めて、ここにも、ここにも、ここにも持っているってことが分かって、横軸で許可を取りに行くようなことがあったんですけども、例えば町民の方が自分で何かをやってみたいと思われた時に、どこの何を抑えればいいのかというのが可視化が容易にできれば、皆さんがもっと参画しやすくなるんじゃないかなと思いました。少しロングスパンの話をさせて頂いて申し訳ないです。(小山)
- ・ ありがとうございます。これに関しては、何か計画は、菅原さんお願いします。(中元)
- ・ はい、あの、まさに、あの、全てが、もう、そのとおりとしか言いようがないんですけども、やっぱり、その、今、磐梯町ではですね、ちょっと他の審議会で官民共創ということで、民間のプレイヤーの人、個人の人と町民の人と関わって色々やってるんですけども、やっぱり、そのやる過程でですね、こう、結果として、これがだめなんだって分かって、その、断念してしまうっていうことってありますので、こういったものは、ここを事前にわかるようなものがあると、本当にそういったものがもっともっと促進されいくなあとと思います。(菅原)
- ・ ありがとうございます。他に何か特にございますかね。
それでちょっと、まだ、私もまだよくわかっていないんですけど、これ協議事項という形にはなってるんですけども、えーと、主にどの辺を協議していただきたいとかっていうのは、菅原さんの方で何かございますか。(中元)
- ・ あの、基本的に一応、このロードマップの案みたいな形、みtainなってあれですけども、この形で方向性として進めていくっていうので、よろしければ、一旦これで、あの、あの、問題なければこういう形で行きたいなという部分。当然、後でそのタイムスケジュールとか審議内容は、あの、その中で変えていっても構わない、一旦こういうフレームでやっていいですかということをお諮りする形です。
(菅原)
- ・ はい、わかりました。ありがとうございます。ご提示頂いた特にタイムスケジュールのところですかね。ここを2020年度にかけて、今年、今ロードマップについての議論をしておりますけども、来年1月2月3月ぐらいにかけて、ご提示いただきましたデジタル変革と情報セキュリティ対策の論点、それから、条例と事業等の再構築の論点について毎月議論を深めていくといった形で、本年度は進めていくということで、こちらのスケジュールに関して何かご意見とか、委員の皆様ございますか。

特にないようですので、こちらの方でご賛同をいただくということでもよろしいですか。はい。あと 2021 年度の方なんですけど、こちらはもうちょっと先の話になるんですけども、2021 年 4 月から 6 月までは具体的具体的の方針について議論ってことで、これは主に具体的には、セキュリティポリシーの話はずっと受けてるとことになるんですかね。(中元)

・ はい、ひとつとしては、セキュリティポリシーの形を作っていきたいと思いますので、その案文あげさせていただきます、また、それを叩いていただくことを想定しております。(菅原)

・ はい、わかりました。ありがとうございます。ここで 3 ヶ月間議論して、それから 2021 年 4 月から 9 月まで、これは国や関連機関に働きかける内容ということで、こちらはかなり、また、ビジョン大きな話になるかと思うんですが、いろいろ今磐梯町でやっているところをまとめて、各関連機体に働きかけをするという形になると思います。はい。最後、2021 年 10 月から 2022 年 3 月は、デジタル変革の総合的な取り組みについての議論ということで、ここで、まとめの議論をもう一度行うという形になりますね。

2021 年に関して、委員の皆様よろしいですか。何かこういったことを議論したほうがいいのかありましたら、ご提示いただければと思います。(中元)

・ あの、先ほど、大久保です。デジタル庁ですかね、あの、まあ、中央省庁とあと、自治体のところ、あの、今有識者の検討会議が進んでますので、資料が公表され次第、私の方からもこの場を活用させて頂いて、ご連携させていただこうと思います。(大久保)

・ ありがとうございます。資料について町の方にご提示いただくということですね。はい。他に委員の方で、何かご意見等ございましたら、お願いいたします。

・ ないようでしたら、一応こちらでご賛同いただいたということで、2021 年についてもこの形で進めさせていただければというふうに考えております。

2022 年年度に関しては、こちらはちょっと先の話になりますので、これはまた、2021 年度の審議会の取り組みを含めてということで、2021 年ぐらいに、また、お話ができればと考えております。

その他ですね、一応こちらのタイムスケジュールについてはすべてご賛同というか、これで審議会としては賛同いたしました、ということにいたしますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

あとですね、特に何かと意見の方が、委員の方からご意見、総合的に何かありましたらお願いいたします。特に大丈夫ですかね。一応こちらの方で、磐梯町のデジタル変革に関する審議会のロードマップはすべて了承という形にしたいと思いますので、こちらの方で順次進めていただければというふうに思います。(中元)

・ 以上になります。穴澤室長、次ですかね、審議会の開催についてという形で次回ですね、ちょっとこちらの方を案内お願いいたします。(中元)

・ それでは、その他ということで、次回 1 月の審議会の開催について、ちょっと協議をさせていただきたいと思います。調整さんによりまして日程調整をさせていただいておりました。1 月 27 日が今のところ皆さんご都合がよろしいようございますので、椎名会長、いらっしゃいませんが、もし、よければ 1 月 27 日水曜日に実施させていただきたいと思っております。

15時から審議会を開催させて頂きまして、18時から情報交換会と考えてございますが、最近、急速に第3派といいますか、新型コロナの患者数が非常に増えてございます。福島県におきましてもですね、今、ステージ2だというようなことを知事も申し立てまして、ステージ3になれば県外との往来も自粛するように要請したいというような昨日報道発表もございましたので、この辺は、コロナの感染状況を見極めながらですね、磐梯町にお越しいただけるか判断してまいりたいと思いますが、審議会につきましては27日に今のところ開催したいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。なお、正式に決定致しましたらまた Teams の方でご連絡させていただきたいと思ひます。はい、私からは以上です。(穴澤)

- ・ どうもありがとうございました。来月という形なんですけど、だいぶ今会津の方は雪が相当降っておりますので、1月も、もしかしたら相当降るかもしれませんが、皆様、暖かい恰好でお越しただければと考えております。

以上で今回の審議会は終了という形にしたいと思ひますけども、ちょっと私の方が椎名開著から急遽お役目を仰せつかりまして、ちょっと、うまく議事進行がいかんかったところもございまして、ご容赦いただければと思ひますので。(中元)

- ・ あ、あと、椎名会長が復帰が、大丈夫ですかね。(中元)
- ・ 大変、助かりました。ありがとうございます。(椎名)
- ・ 議事の方は終了してしまったところもあるんですが、はい。(中元)
- ・ こちら聞こえてるんですけど、なかなか発言ができなくて、ごめんなさい。(椎名)
- ・ どうでしょうかね。最後ちょっと、今日は町長いらっしゃってるんで、なんか一言いただきましょうか。すみません、佐藤町長、お願いいたします。(中元)

- ・ 今日はありがとうございました。今、本当に雪が降っていて、ずっと見せていたんですけど、ただその大雪にはなっていないですけどね。今、ちょうど磐梯町で10センチ、15センチぐらいから降ってる状況であります。

今ずっと聞いてましたけど、あの基本やはり、BPRに関しましては、職員のモチベーションって非常に大事だなと確かに考えてますし、その辺の仕組みをどう考えてるのかっていうところですね、あとやっぱりそういったそのサポートをする期間っていうところは、組織としてはい考えていかなきゃいけないっていうところはすごくあるって感じてます。

今回、コドモンっていうものを保育所に導入したところですね、いろんなやっぱり、職員の方からですね、業務量が増えたですとか、どういうふうにつかっていいのかわからないですとか、そういったところは、まあ、準備かなり万端ってやったんですけどかかわらず、そういった意見がが出てきてるってこともあると思ひますので、その辺も含めて考えていかなければならないと思ひております。

あとやはりセキュリティポリシーもですね、この辺もですね、具体的にちょうど、まあ、いい機会ですから、全て割と先進的な形でですね、直していければなあというふうを考えております。

あとですね、あの、話さっきありましてですね、この条例でこの部分を変えたらこの部分は変わるって話、非常に魅力的だと思ひておりまして、まあそれですね何かの AI 技術を活用しながらできて

いったら、すごく面白いじゃないかなと思ってますし、それではですね横展開していけばなと思っています。実は、この間の議会です、実は条例をですね、税金の条例かな、ほぼ変えていない、ちょっとずつ変えていなくてですね、まとめて20ページくらい変えたっていうのがありまして、議員の皆さんからすごい怒られたっていうのがありますので、そういった意味でもですね、あのここを変えればここが変わっていくようなツールができれば最高かなと思っています。

本当にですね、皆様方にはいろいろと本当に勉強なるお話をいっぱいお聞きしましたので、そのベースにですね、町もですね、いろいろな皆様の意見を聞きながらですね、一番、できれば他のところに横展開できる仕組みを作ってきていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお聞きしたいと思っております。以上です。(町長)

- ・ どうもありがとうございました。それでは審議会の方なんですけども、これで閉会という形にしたいと思っております。はい、今日は皆様どうもありがとうございました。(中元)
- ・ ありがとうございました。(全委員)
- ・ お疲れさまでした。(穴澤)
- ・ お疲れさまでした。(中元)。

以上で審議会を終了し、閉会する。

